

年 組 名前:



昭和30年代まで流行した御殿飾り雛。子どもが豊かに暮らせることを願って飾られたという

江戸の享保年間に流行した「享保雛」。はかまに綿を入れ膨らませている。いずれも南アルプス市西南湖

南ア・安藤家住宅で展示



〈戸松優〉

28日、3月7日、同15日午前10時〜正午には琴の演奏会も開く。展示は4月6日まで。午前9時〜午後4時半。火曜休館。入館料は一般300円、小中高生100円、未就学児無料。

時代映すひな人形300体

南アルプス市西南湖の重要文化財・安藤家住宅で、江戸時代中期から昭和期までのひな人形を紹介する「ひなまつり」が開かれている。市内で飾られていた人形約300体を展示している。山梨独自の人形飾り「横沢びな」や、江戸の享保年間に流行した「享保雛」、昭和30年代ごろまで流行した「御殿飾り雛」などが並ぶ。横沢びなは、甲府市の旧横沢町にあったひな問屋で明治、大正期に制作された添えひなで、躍動感ある手足の表現や豊かな表情が特徴。背面は千代紙が張られるなど質

素な作りで、農村部では売り子が担いで売り歩いていたとされる。このほか、昭和30年代に市古市場の家庭で飾られたひな壇を再現したコーナーもある。当時の写真では、ぬいぐるみや説話人形などがひな壇に一緒に並べられていて、「説話などを語りながら飾る過程も楽しんでいたのでないか」（担当者）という。担当者は「ひな人形の特徴は時代によって異なるが、いつの時代も子どもの健やかな成長や豊かな暮らしを願っていたことがうかがえる」と話す。

(2026年2月27日付 山梨日日新聞 22面)

問1 時代を映す「ひな人形」を紹介する「ひなまつり」が開かれている場所を教えてください。

.....市.....の.....に指定されている.....

問2 「横沢びな」は、いつの時代に制作され、どのような特徴がありますか。

制作時期: 特徴:

問3 昭和30年代のひな壇には、なにが一緒に並べられていましたか。

.....